

郷土摂津 いにしえ通信

第87号



平成17年7月1日

発行

摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス

<http://www.city.settsu.osaka.jp/>



ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

人類が出現する以前の原始・古代・
中近世から現代まで時代別に淀川
と摂津市の関わりに迫ります。

第4回

京都盆地にあった巨椋池 今から 60～70 年前まで京都南の盆地の一番低いところに、桂川、宇治川、木津川が合流する場所に巨椋池という池がありました。今は埋め尽くされて殆ど面影はありません。

『日本書紀』に仁徳天皇が八田皇女を娶ったことに、仁徳天皇の后が怒って、夫の待つ難波を素通りして「淀川から上り、山城を経て大和へ」向かったという記述があります。淀川から巨椋池を通り、木津川を登ったということで、仁徳期にこの水路を利用した交通があったということがわかります。淀川は稲作の用排水は勿論のこと水上交通の大動脈として機能していました。

継体天皇以前の天皇は大和川水系の出自で、琵琶湖・淀川水系では継体が初めての天皇となります。即位は枚方の樟葉宮で、またその後も京田辺の筒城宮、三島の乙訓宮と淀川水系に転々と都を遷し最後に桜井の磐余玉穂宮に都を遷しました。墓も高槻市の今城塚古墳と想定され、淀川との繋がりは強いものがあります。往時は恐らく琵琶湖から宇治川を経て巨椋池、木津川、淀川を頻りに往復していたことでしょう。

その後長く巨椋池は葦が生い茂る湿地帯でした。平安貴族にとっては、都に近いこの地は日帰りで行楽する絶好の場所だったことでしょう。巨椋池で舟遊びを楽しんだり、歌ったり、優雅な楽しい姿が目に見えます。そして巨椋池がかもし出すこのあたりの景色の素晴らしさは人々に語り継がれていくこととなります。

豊臣秀吉も巨椋池を眺めて茶の湯や宴を楽しもうと、この地に隠居城として指月城を築城しました。1596年の伏見大地震の発生により指月城が倒壊しました。秀吉は1kmほど離れた木幡山に新しい城を築きました。多くの堀をめぐらした大城郭であり、巨椋池を見下ろす壮大、豪華な伏見城を完成させます。秀吉は1598年この城で最後を迎えることとなります。秀吉は伏見城の構築にあたって、巨椋池沿岸の大土木工事を実施しました。槇島堤を造り宇治川を伏見津に迂回させ巨椋池と流路を絶ちます。また巨椋池を南北に二分する小倉堤を築き、宇治川を渡る豊後橋を架け伏見の町から京に通じる新しい街道を造りました。秀吉の改修のあと、大河川が合流するため、ここに住む人々は毎年のように水害に悩まされていました。(裏面へつづく)



明治 18 年の堤防決壊を機に、ヨーロッパの先進技術を導入した河川改修工事が行われ、明治 40 年に巨椋池は河川と分離されました。しかしそれでも水害はなくなり、その上、河川と切り離されたために、池の水位低下がすすみ水質が悪化し、魚も捕れなくなり、マラリアも発生しました。そのため、農地への転換を願う地元住民の声が起こり、昭和 8 年に国営第 1 号の干拓事業が着工されます。この事業は、現在の排水設備を使用し池面積約 800ha を干拓して、634ha の農地を造成しました。また、沿岸の既耕地 1,260ha の用水改良も併せて行い、戦前戦後の食料確保に大きく寄与すると共に、その後の食糧の自給と農村経済の向上を図ることが出来ました。干拓による総事業費は 3,463,856 円。干拓田は、戦後幾度となく台風や大雨による被害を受けてきました。特に、昭和 28 年 9 月の台風被害は大きく、干拓田の水を完全に排水するのに 80 日間かかりました。この台風を契機に昭和 36 年に着工された天ヶ瀬ダムが昭和 39 年に完成し治水効果が向上しました。現在でも雨が降ると干拓田が水没するので、排水のポンプは開拓田の生命線として活躍しています。産業の発展に伴い、昭和 41 年国道 1 号線の開通、63 年には京滋バイパス、第 2 京阪道路の建設等干拓地は交通の要所として、今日に至っています。

お知らせ

縄文土器をつくろう！
縄文ポシエットをつくろう！

縄文た・ん・け・ん隊

とき 平成 17 年 8 月 11 日(木)午後 1 時から 4 時
8 月 22 日(月)午後 1 時から 5 時

ところ 千里丘公民館 生活実習室他

内容 縄文土器をつくろう
粘土で縄文時代の土器をつくります。
縄文土器を焼こう
野焼きで土器を焼きます。
縄文ポシエットをつくろう
網代編みにチャレンジ。

参加費 600 円(粘土代)

定員 20 名

対象 小中学生

申込みは 8 月 9 日までに生涯学習課まで電話・電子メール可。申込み多数の場合は抽選となります。

06 (6383) 1111・072 (638) 0007

ibe-takao@city.settsu.osaka.jp



「ポシエット」と呼ぶに相応しいこのカゴは、ほぼ完全な形で青森県の三内丸山遺跡から出土しました。イグサ科の植物を使って編まれていて、中にはクルミの実が入っていました。このポシエットの編み方もまた今日でも使用されています。今回の講座ではクラフト厚紙で忠実にこのポシエットを作製します。

体験学習サポートグループ募集

ハンズ・オン！

講座をサポートしていただく方も募集しています。体験学習を通じて楽しく学び、子どもたちに伝えていきましょう

日時 8 月 8・9 日

午後 1 時～ 4 時

会場 市役所新館 6 階

教育委員会会議室

内容 考古学概説、土器・ポシエットづくり研修他

申込みは生涯学習課まで。

ふるさと摂津講座

7月開催

摂津市とゆかりのあるテーマを選択し、古代からちょっと昔まで、摂津市の歴史を楽しく学習する講座です。講師はいずれもふるさと摂津案内人が努めます。受講に際しては、申込みは必要ありません。直接会場へご来場ください。

日時 平成 17 年 7 月 15 日(水)午後 2 時～ 4 時

会場 摂津市総合福祉会館第 1 会議室 定員 60 名

内容 都市化と水害 講師：高上慶美氏

考古学情報コーナー「埋もれた摂津市の歴史」は今月号はお休みします。